

愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

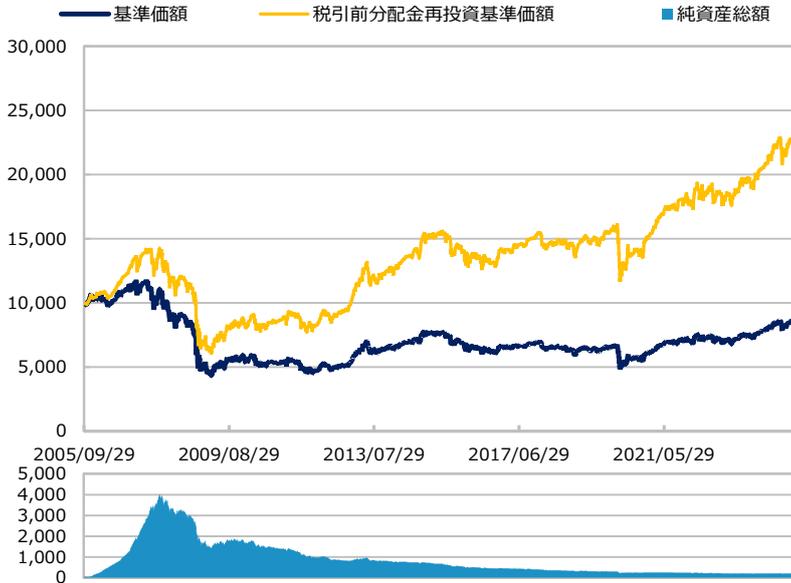
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年12月30日

ファンド設定日：2005年09月30日

日経新聞掲載名：ワンプレ

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	8,417	+75
純資産総額（百万円）	18,822	+1

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/11/29	1.0
3 カ月	2024/09/30	1.8
6 カ月	2024/06/28	-0.5
1 年	2023/12/29	9.9
3 年	2021/12/30	22.3
設定来	2005/09/30	124.6

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第227期	2024/08/20	10
第228期	2024/09/20	10
第229期	2024/10/21	10
第230期	2024/11/20	10
第231期	2024/12/20	10
設定来累計		7,250

- ※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
グローバル債券マザー	33.1	-0.4
グローバル株式マザー	21.8	-0.1
エマージング株式マザー	10.8	+0.6
グローバルリートマザー	32.1	-0.8
現金等	2.2	+0.7
合計	100.0	0.0

- ※ 組入マザーファンドの正式名称は2枚目をご覧ください。

運用概況

当月末の基準価額は、8,417円（前月比+75円）となりました。当月は10,000口当たり10円の分配（税引前）を実施しました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+1.0%となりました。

- ※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
- ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

- 設定・運用



愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年12月30日

組入上位10通貨 (%)

	当月末	前月比	
1 アメリカドル	35.4	-0.2	35.4
2 ユーロ	15.9	-0.7	15.9
3 日本円	9.1	-0.5	9.1
4 香港ドル	4.5	+0.2	4.5
5 イギリスポンド	4.1	-0.8	4.1
6 オーストラリアドル	3.2	-0.3	3.2
7 シンガポールドル	3.1	+0.4	3.1
8 中国元(オフショア)	2.5	-0.3	2.5
9 カナダドル	2.4	+0.2	2.4
10 台湾ドル	2.3	+0.2	2.3

組入投資信託の騰落率 (%)

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	当月騰落率 (%)
グローバル債券マザー	2.8	4.7	-1.0	7.2	17.6	83.1	2.8
グローバル株式マザー	2.0	5.0	1.4	23.9	66.4	465.5	2.0
エマーシング株式マザー	5.4	2.7	-4.2	14.2	32.5	76.0	5.4
グローバルリートマザー	-2.4	-2.1	2.0	7.6	15.0	141.2	-2.4

- ※ グローバル債券マザーの正式名称は「G 2 0 α債券マザーファンド」です。
- ※ グローバル株式マザーの正式名称は「グローバル好利回り株式マザーファンド」です。
- ※ エマーシング株式マザーの正式名称は「新興国高配当株式マザーファンド」です。
- ※ グローバルリートマザーの正式名称は「グローバル・リート・マザーファンド」です。

組入投資信託の参考利回り (%)

	当月末	前月比	
グローバル債券マザー	3.1	-0.1	3.1
グローバル株式マザー	3.5	+0.1	3.5
エマーシング株式マザー	5.0	+0.1	5.0
グローバルリートマザー	4.7	+0.2	4.7

- ※ 参考利回りは、グローバル債券マザーは直接利回り、グローバル株式マザーおよびエマーシング株式マザーは予想配当利回り、グローバルリートマザーは直近配当利回りです。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



基準価額の変動要因（円）

全体	計	インカム	キャピタル
債券	-24	+13	-37
株式	-20	+8	-28
リート等	-152	+12	-164
為替	+292	-	-
分配金	-10	-	-
その他	-10	-	-
合計	+75	+32	-229

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

債券要因

	寄与額
上位	
1 中国	+5
2 トルコ	+3
3 オーストラリア	+0
4 カナダ	+0
5 南アフリカ	+0
下位	
1 アメリカ	-20
2 ユーロ	-10
3 イギリス	-4
4 日本	-0
5 インド	-0

株式要因

	寄与額
上位	
1 台湾	+11
2 中国	+9
3 オーストリア	+4
4 日本	+3
5 オーストラリア	+2
下位	
1 アメリカ	-32
2 イギリス	-8
3 韓国	-5
4 ブラジル	-4
5 ドイツ	-3

リート要因

	寄与額
上位	
1 メキシコ	-0
2 香港	-2
3 スペイン	-3
4 フランス	-3
5 シンガポール	-6
下位	
1 アメリカ	-102
2 オーストラリア	-13
3 イギリス	-10
4 カナダ	-7
5 日本	-6

為替要因

	寄与額
上位	
1 アメリカドル	+149
2 ユーロ	+49
3 香港ドル	+19
4 イギリスポンド	+14
5 インドルピー	+10
下位	
1 韓国ウォン	-1
2 ニューージーランドドル	+0
3 ロシアルーブル	+0
4 ノルウェークローネ	+0
5 南アフリカランド	+0

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

外国株式市場では、米国株式市場は下落しました。S&P500インデックスは、月前半は史上最高値を更新するなど高値圏で推移しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では0.25%の利下げが実施されましたが、参加者による2025年利下げ見通しの中央値が4回から2回に下がったことから利下げに対する市場の期待は後退し、月末にかけて軟調に推移しました。個別銘柄では、アドビやオラクルなど大手ソフトウェア企業の決算内容を嫌気する動きも見られました。欧州株式市場は全体では下落しました。上旬は、政治的不透明感が後退するとの観測からフランスの株式市場が上昇するなど、欧州株式市場は上昇しました。しかし、その後ECB（欧州中央銀行）が利下げを実施したものの、ラガルド総裁の会見がハト派（景気を重視する立場）的ではないと受け止められたことなどから、株式市場は軟調となりました。月間を通しては、フランスやドイツは上昇しましたが、イギリスやスイスは下落しました。

外国債券市場では、米国では、長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。月初は、経済指標が強弱入り混じる中、金利は横ばいで推移しました。その後、トランプ新政権の政策による財政悪化懸念から債券需給に対する不安が高まったことやインフレ上昇リスクなどから、金利は上昇しました。FOMCでは予想通り0.25%の利下げが実施されましたが、参加者による2025年利下げ見通しの中央値が4回から2回に下がったことなどから、金利はさらに上昇しました。ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は上昇しました。月初はフランスの政局混迷やECBの利下げ観測から金利は一旦低下したものの、フランスの政局混迷が一服すると金利は上昇しました。その後、ECBでは予想通り0.25%の利下げが実施されましたが、ラガルド総裁の会見がハト派的ではないと受け止められたことや米金利の上昇、ドイツ政局の不透明感などを受けて金利は上昇しました。

グローバルリート市場（米ドルベース）は、FRB（米連邦準備制度理事会）が、12月に政策金利の誘導目標を0.25%引き下げたにもかかわらず、長期金利が上昇したことが主な悪材料となり、米国主導で下落しました。米国のFOMCで、物価上昇率など経済予測が引き上げられたことは、空室率改善などにポジティブ要因と見られます。しかし、今後の利下げペースが緩慢になると示唆され、米国長期金利が上昇したため、リート市場にはネガティブ効果の方が大きくなりました。欧州やアジアのリート市場でも、各地の長期金利が下げ渋ったこともあり軟調な展開となりました。国内リート市場は、長期金利の上昇に加え、投資信託からの売り優勢という需給要因もあり、下落しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

為替市場では、米ドル/円は上昇しました。月前半は、日銀が12月利上げを見送るとの報道が相次いだことから、米ドル高・円安の展開となりました。月後半は、日銀が実際に利上げを見送ったことに加えて植田総裁の会見がハト派的と捉えられたこと、米金利の上昇などから、さらに米ドル高・円安が進みました。ユーロ/円は上昇しました。フランスの政局混迷やドイツの政局不安から一時的にユーロ安・円高となる局面はありましたが、日銀のハト派的姿勢や米ドル高・円安の展開などから、概ねユーロ高・円安の展開が続きました。豪ドル/円は概ね横ばいとなりました。

<市場見通し>

外国株式市場について、米国株式市場は、利下げの実施により景気の先行き不安が緩和することに加えて、トランプ新政権による法人減税や規制緩和の可能性が、市場を下支えすることが期待できます。一方で、財政赤字拡大観測に伴う金利の動きやテクノロジーを中心に歴史的には割高圏にあるバリュエーション（投資価値評価）が上値の抑制要因となることは警戒されます。中長期的には、企業業績はテクノロジーに続いて製造業でも回復途上にあることから、インフレの再加速が見られない限り、業績の回復に伴って、株式市場はレンジが切り上がる動きを予想します。欧州株式市場は、域内景気は安定化しつつあるとの見方に加えて、ECBによる利下げ継続が見込まれることから、緩やかな上昇を予想します。

外国債券市場について、米国では、利下げの継続とともに長期金利は低下していくと予想します。トランプ新政権は成長促進的な経済政策を実施する見通しですが、インフレ率の正常化が進む中で、緩やかな利下げの継続を想定しています。ただし、拡張的な財政政策の下では、長期債利回りに期間プレミアム（保証料率）が求められるとみられ、長期金利の水準は高止まりしやすいと予測します。ユーロ圏では、長期金利は利下げとともに緩やかに低下していくと予想します。物価上昇ペースの鈍化が進んでおり、ECBは利下げを継続する見通しです。米新政権がユーロ圏に関税を課した場合、ユーロ圏の経済成長率は下振れる見通しとなり、ECBは利下げで対応することが予想されます。このため、政策金利の最終到達水準が低くなる可能性が高まると予測します。

グローバルリート市場は、目先、米新政権による経済政策が米国長期金利の上昇を招くのではないかと懸念が後退するまでは、不安定な動きになる見通しです。欧州、アジアのリート市場も、各地の金利が米国の長期金利の影響を受けていると見られることから、不安定な動きを予想します。少し長い目で見ると、米国リート市場では、データセンターとヘルスケアセクターのシニアハウジングの高成長が続いています。オフィスリートは

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドマネージャーコメント

バリュエーションが相対的に割安となっており、ファンダメンタルズ（基礎的条件）の改善が待たれます。欧州・アジア・オセアニアリート市場は、景気の回復や政策金利の引き下げが期待できるため緩やかな上昇を予想します。国内リート市場は、オフィス賃料の改善が見込まれますが、日銀の利上げ懸念が大きく、低調な取引が続く見通しです。

為替市場については、米ドル/円は、緩やかな米ドル安・円高の展開を予想します。日米の金融政策の方向性の違い（日銀の利上げ、FRBの利下げ）が米ドル安・円高圧力になると考えます。ただし、日本の国際収支の構造変化や金利差がなお大きいことからペースは緩やかと予想します。ユーロ/円は、緩やかなユーロ安・円高の展開を予想します。ユーロ圏経済は減速感が出ており、米新政権の関税政策もユーロ安要因と考えます。金融政策の方向性の違い（日銀の利上げ、ECBの利下げ）もユーロ安・円高要因となる見込みです。豪ドル/円は、米国が緩やかな利下げに動きRBA（オーストラリア準備銀行）も追随するとみられる中、日銀の追加利上げが意識されて、緩やかな豪ドル安・円高を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：ワンプレートランチ
グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年12月30日

基準価額の変動要因（円）

	2024/07	2024/08	2024/09	2024/10	2024/11	2024/12	6か月集計	12か月集計
債券	+36	+36	+33	-50	+31	-24	+61	+20
インカム	+10	+9	+9	+9	+10	+13	+60	+101
キャピタル	+26	+27	+24	-59	+20	-37	+1	-81
株式	+3	+47	+63	-27	-15	-20	+51	+314
インカム	+13	+6	+10	+3	+5	+8	+45	+86
キャピタル	-10	+42	+52	-30	-20	-28	+6	+228
リート等	+150	+98	+102	-62	-9	-152	+128	+16
インカム	+9	+12	+9	+4	+11	+12	+57	+112
キャピタル	+142	+86	+93	-67	-19	-164	+70	-96
為替	-393	-280	-57	+433	-212	+292	-217	+541
アメリカドル	-182	-156	-49	+239	-61	+149	-60	+354
ユーロ	-63	-38	-8	+64	-64	+49	-59	+69
オーストラリアドル	-19	-2	+2	+6	-8	+1	-20	+8
イギリスポンド	-19	-12	+1	+18	-16	+14	-14	+28
カナダドル	-11	-4	-3	+7	-4	+4	-11	+6
ブラジルリアル	0	0	0	0	0	0	0	+2
メキシコペソ	-11	-10	+0	+2	-2	+3	-17	-17
トルコリラ	-3	-5	-1	+5	-4	+5	-3	-3
香港ドル	-19	-17	-4	+29	-7	+19	+1	+42
台湾ドル	-14	-5	-1	+11	-6	+7	-7	+4
韓国ウォン	-7	-2	+1	+2	-4	-1	-10	-3
その他	-46	-28	+4	+50	-36	+41	-17	+51
分配金	-10	-10	-10	-10	-10	-10	-60	-120
その他	-12	-10	-11	-10	-11	-10	-65	-124
合計	-226	-119	+119	+274	-226	+75	-103	+647

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

ご参考 為替の推移（円）

	2024/07末	2024/08末	2024/09末	2024/10末	2024/11末	2024/12末
アメリカドル	152.4	144.8	142.7	153.6	150.7	158.2
ユーロ	164.9	160.4	159.4	166.7	159.2	164.9
オーストラリアドル	99.7	98.4	98.7	100.9	98.0	98.5
イギリスポンド	195.8	190.7	191.0	199.0	191.5	199.0
カナダドル	110.0	107.3	105.6	110.4	107.6	109.8
ブラジルリアル	27.1	25.7	26.2	26.6	25.1	25.5
メキシコペソ	8.1	7.3	7.2	7.6	7.4	7.8
トルコリラ	4.6	4.3	4.2	4.5	4.4	4.5
香港ドル	19.5	18.6	18.4	19.8	19.4	20.4
台湾ドル	4.6	4.5	4.5	4.8	4.6	4.8
韓国ウォン	11.1	10.9	10.9	11.2	10.8	10.8

※ 為替レートは一般社団法人 投資信託協会が発表する仲値（TTM）です。

※ 韓国ウォンは100通貨単位あたりの数値を表示しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年12月30日

※ このページは「G20α債券マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	95.7	-3.6
先物等	0.0	0.0
現金等	4.3	+3.6
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	2.9	-0.2
残存年数 (年)	8.8	-0.9
デュレーション (年)	7.1	-0.7
直接利回り (%)	3.1	-0.1
最終利回り (%)	6.1	+0.2
平均格付け	AA+	AA+

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	32.1	+2.3
2 ユーロ	24.3	-1.9
3 中国元(オフショア)	7.1	-0.9
4 日本円	6.6	+0.0
5 トルコリラ	5.8	+0.4

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	32.1	+2.3
2 国際機関	11.1	-1.4
3 スペイン	7.8	+0.3
4 中国	7.1	-0.9
5 日本	6.6	+0.0

種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	84.6	-2.2
州政府債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
国際機関債	11.1	-1.4
社債	0.0	0.0
その他	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	69.6	-3.3
AA	15.4	-0.6
A	5.1	+0.2
BBB	0.7	+0.0
BB以下	5.0	+0.1

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 87)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	4.125	2.9	8.6
2 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	2.875	4.3	6.0
3 南アフリカ国債	南アフリカランド	南アフリカ	8.875	10.2	5.0
4 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	4.125	6.6	4.8
5 187 20年国債	日本円	日本	1.300	19.0	3.6
6 スペイン国債	ユーロ	スペイン	0.000	3.1	3.0
7 スペイン国債	ユーロ	スペイン	0.500	5.3	2.9
8 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	4.375	9.4	2.3
9 アメリカ国債	アメリカドル	アメリカ	3.875	18.4	2.3
10 欧州復興開発銀行債	トルコリラ	国際機関	0.000	1.5	2.3

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



※ このページは「G20α債券マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

（債券）米国では、長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。月初は、経済指標が強弱入り混じる中、金利は横ばいで推移しました。その後、トランプ新政権の政策による財政悪化懸念から債券需給に対する不安が高まったことやインフレ上昇リスクなどから、金利は上昇しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では予想通り0.25%の利下げが実施されましたが、参加者による2025年利下げ見通しの中央値が4回から2回に下がったことなどから、金利はさらに上昇しました。ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は上昇しました。月初はフランスの政局混迷やECB（欧州中央銀行）の利下げ観測から金利は一旦低下したものの、フランスの政局混迷が一服すると金利は上昇しました。その後、ECBでは予想通り0.25%の利下げが実施されましたが、ラガルド総裁の会見がハト派（景気を重視する立場）的ではないと受け止められたことや米金利の上昇、ドイツ政局の不透明感などを受けて金利は上昇しました。

（為替）米ドル/円は上昇しました。月前半は、日銀が12月利上げを見送るとの報道が相次いだことから、米ドル高・円安の展開となりました。月後半は、日銀が実際に利上げを見送ったことに加えて植田総裁の会見がハト派的と捉えられたこと、米金利の上昇などから、さらに米ドル高・円安が進みました。ユーロ/円は上昇しました。フランスの政局混迷やドイツの政局不安から一時的にユーロ安・円高となる局面はありましたが、日銀のハト派的姿勢や米ドル高・円安の展開などから、概ねユーロ高・円安の展開が続きました。

（新興国市場）新興国債券市場では金利は一進一退となりました。月前半は、新興国での利下げ開始や利下げサイクルの進展が意識されたことなどから金利は低下基調となりました。その後は、米国の金利が大きく上昇したことを背景にグローバルに金利上昇圧力が高まり、新興国の金利は上昇しました。新興国の為替相場は上昇しました。日銀による利上げの見送りやハト派姿勢から円安が進行し、新興国通貨は対円で上昇しました。

<運用経過>

投資対象国と国別配分・通貨配分などについて、各国の経済・政治などの状況や、金利水準、市場での流動性、通貨分散などを勘案し運用方針を決定しました。今月はグローバルな金利上昇を受けて米国を中心に債券のデュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）を短期化しました。また、インドの通貨安リスクの高まりを受けてインドのウェイトを引き下げました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「G20債券マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場見通しおよび今後の運用方針>

（債券）米国では、利下げの継続とともに長期金利は低下していくと予想します。トランプ新政権は成長促進的な経済政策を実施する見通しですが、インフレ率の正常化が進む中で、緩やかな利下げの継続を想定しています。ただし、拡張的な財政政策の下では、長期債利回りに期間プレミアムが求められるとみられ、長期金利の水準は高止まりしやすいと予測します。ユーロ圏では、長期金利は利下げとともに緩やかに低下していくと予想します。物価上昇ペースの鈍化が進んでおり、ECBは利下げを継続する見通しです。米新政権がユーロ圏に関税を課した場合、ユーロ圏の経済成長率は下振れる見通しとなり、ECBは利下げで対応することが予想されます。このため、政策金利の最終到達水準が低くなる可能性が高まると予測します。

（為替）米ドル/円は、緩やかな米ドル安・円高の展開を予想します。日米の金融政策の方向性の違い（日銀の利上げ、FRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ）が米ドル安・円高圧力になると考えます。ただし、日本の国際収支の構造変化や金利差がなお大きいことからペースは緩やかと予想します。ユーロ/円は、緩やかなユーロ安・円高の展開を予想します。ユーロ圏経済は減速感が出ており、米新政権の関税政策もユーロ安要因と考えます。金融政策の方向性の違い（日銀の利上げ、ECBの利下げ）もユーロ安・円高要因となる見込みです。

（新興国市場）グローバルに見ると、景気が底堅く推移しつつインフレの正常化が継続し利下げが続くと見込まれ、新興国市場は下支えされやすいと考えます。ただし、新興国は国によって政治状況や地政学リスクを含めて差が出ており、加えて米トランプ新政権の影響も国によって違いが出ると想定されることから、これまでより選別色が強まりやすいと想定します。

以上の見通しを背景に、今後も安定した収益の確保をめざすべく機動的なファンド運営を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	97.9	+0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.1	-0.2
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	3.5	+0.1

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りは予想配当利回りです。
- ※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	44.3	+0.4
2 フランス	10.0	-0.5
3 日本	8.2	+0.2
4 スペイン	4.6	+0.3
5 ドイツ	4.5	+0.0

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	44.3	+0.4
2 ユーロ	25.4	-0.2
3 日本円	8.2	+0.2
4 香港ドル	7.0	+0.2
5 スイスフラン	4.2	-0.5

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比
1 エネルギー	16.2	-0.5
2 銀行	15.3	+0.5
3 資本財	7.4	-0.6
4 医薬品・バイオテクノロジー	6.6	+0.2
5 公益事業	6.6	-0.1

※ 業種は国内株式：東証33業種、外国株式：GICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 44)

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	アメリカ	銀行	5.0	2.0
2 ドイツ・テレコム	ドイツ	電気通信サービス	4.5	3.0
3 ウィリアムズ・カンパニーズ	アメリカ	エネルギー	4.2	3.4
4 エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	4.1	3.6
5 トタルエナジーズ	フランス	エネルギー	4.0	6.1
6 シェブロン	アメリカ	エネルギー	3.9	4.4
7 ペプシコ	アメリカ	食品・飲料・タバコ	3.5	3.5
8 メルク	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.3	3.1
9 INGグループ	オランダ	銀行	2.9	7.4
10 SITCインターナショナル・ホールディングス	ケイマン諸島	運輸	2.9	11.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

米国株式市場は下落しました。S&P500インデックスは、月前半は史上最高値を更新するなど高値圏で推移しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では0.25%の利下げが実施されましたが、参加者による2025年利下げ見通しの中央値が4回から2回に下がったことから利下げに対する市場の期待は後退し、月末にかけて軟調に推移しました。個別銘柄では、アドビやオラクルなど大手ソフトウェア企業の決算内容を嫌気する動きも見られました。

欧州株式市場は全体では下落しました。上旬は、政治的不透明感が後退するとの観測からフランスの株式市場が上昇するなど、欧州株式市場は上昇しました。しかし、その後ECB（欧州中央銀行）が利下げを実施したものの、ラガルド総裁の会見がハト派（景気を重視する立場）的ではないと受け止められたことなどから、株式市場は軟調となりました。月間を通しては、フランスやドイツは上昇しましたが、イギリスやスイスは下落しました。

（為替）米ドル/円は上昇しました。月前半は、日銀が12月利上げを見送るとの報道が相次いだことから、米ドル高・円安の展開となりました。月後半は、日銀が実際に利上げを見送ったことに加えて植田総裁の会見がハト派的と捉えられたこと、米金利の上昇などから、さらに米ドル高・円安が進みました。

ユーロ/円は上昇しました。フランスの政局混迷やドイツの政局不安から一時的にユーロ高・円高となる局面はありましたが、日銀のハト派的姿勢や米ドル高・円安の展開などから、概ねユーロ高・円安の展開が続きました。

<運用経過>

12月は、現金比率調整のため、保有銘柄の一部売却を行いました。具体的には、フランスの大手化粧品会社や同じくフランスの電気・産業機器メーカー、オーストリアの金融グループなどを一部売却しました。

<市場見通し>

米国株式市場は、利下げの実施により景気の先行き不安が緩和することに加えて、トランプ新政権による法人減税や規制緩和の可能性が、市場を下支えすることが期待できます。一方で、財政赤字拡大観測に伴う金利の動きやテクノロジーを中心に歴史的には割高圏にあるバリュエーション（投資価値評価）が上値の抑制要因となることは警戒されます。中長期的には、企業業績はテクノロジーに続いて製造業でも回復途上にあることから、インフレの再加速が見られない限り、業績の回復に伴って、株式市場はレンジが切り上がる動きを予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



※ このページは「グローバル好利回り株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

欧州株式市場は、域内景気は安定化しつつあるとの見方に加えて、ECBによる利下げ継続が見込まれることから、緩やかな上昇を予想します。

<今後の運用方針>

当面の株式市場は、情報技術など一部のセクターだけではなく、より広範囲なセクターにおいて業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視します。

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実性が期待されること」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけでなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより選好される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	93.3	+1.9
先物等	0.0	0.0
現金等	6.7	-1.9
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	5.0	+0.1

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りは予想配当利回りです。
- ※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 台湾	20.1	+1.2
2 中国	12.2	+1.0
3 韓国	11.6	-1.4
4 ケイマン諸島	7.1	+0.1
5 メキシコ	5.5	-0.0

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 台湾ドル	21.1	+1.1
2 香港ドル	18.2	+1.5
3 韓国ウォン	11.6	-1.4
4 アメリカドル	7.5	-0.6
5 インドネシアルピア	5.1	-0.3

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比
1 銀行	15.6	-0.0
2 テクノジ・ハードウェア・機器	11.3	+0.9
3 半導体・半導体製造装置	9.1	-0.3
4 不動産管理・開発	7.6	+2.1
5 資本財	7.3	+0.6

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 63)

銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1 ホンハイ精密	台湾	テクノジ・ハードウェア・機器	4.4	3.2
2 メディアテック	台湾	半導体・半導体製造装置	4.4	4.2
3 マッコーリー・コリア・インフラストラクチャー・ファンド	韓国	金融サービス	3.7	7.3
4 招商銀行	中国	銀行	3.6	5.5
5 ティスコ・ファイナンシャル・グループ	タイ	銀行	2.9	7.9
6 中国通信服務	中国	資本財	2.8	5.9
7 テルコム・インドネシア	インドネシア	電気通信サービス	2.5	6.7
8 CTP	オランダ	不動産管理・開発	2.4	3.9
9 ウチ・テクノロジーズ	マレーシア	テクノジ・ハードウェア・機器	2.4	6.2
10 ASEテクノロジ・ホールディング	台湾	半導体・半導体製造装置	2.3	3.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

12月の新興国株式市場は上昇しました。

米国株式市場は下落しました。S&P500インデックスは、月前半は史上最高値を更新するなど高値圏で推移しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では0.25%の利下げが実施されましたが、参加者による2025年利下げ見通しの中央値が4回から2回に下がったことから利下げに対する市場の期待は後退し、月末にかけて軟調に推移しました。

欧州株式市場は全体では下落しました。上旬は、政治的不透明感が後退するとの観測からフランスの株式市場が上昇するなど、欧州株式市場は上昇しました。しかし、その後ECB（欧州中央銀行）が利下げを実施したものの、ラガルド総裁の会見がハト派（景気を重視する立場）的ではないと受け止められたことなどから、株式市場は軟調となりました。

新興国株式市場は上昇しました。

アジアの新興国市場では、中国株は上昇しました。経済政策方針を決める中央経済工作会議にて新たな景気刺激策が発表されるとの期待が高まったことや、中国共産党中央政治局（中国共産党を指導し、政策を決定する機関）が金融政策をより緩和的な方針に変更すると発表したことなどが好感されました。

アジア以外の地域では、ブラジル株が軟調でした。国内景気は概ね良好なものの、ブラジル中央銀行が市場予想を上回る1%の利上げを実施したことなどが嫌気されました。

※各国の上昇下落のコメントはMSCI指数、ローカル通貨をベースに記載しています。

<運用経過>

12月は、住宅や商業用不動産の開発による今後の増益、増配が期待されることから、UAE（アラブ首長国連邦）の不動産開発会社を新規に購入しました。

<市場見通し>

新興国株式市場は欧米の金融緩和を背景に、緩やかな上昇基調を見込みます。

FRB（米連邦準備制度理事会）による利下げが始まったこともあって、一部の新興国の中央銀行もすでに利下げ

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「新興国高配当株式マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

を行っており、その他の中央銀行も利下げを行うと予想されています。利下げによる景気回復期待に加え、新興国通貨安の懸念の後退もあって、アジアの新興国株式市場は緩やかに上昇する見通しです。また、メキシコなどにおいてもインフレ率低下に伴い、追加利下げが見込まれることから、個人消費中心に国内景気の回復が加速する可能性があります。トランプ新政権の各種政策、欧米と中国の通商問題、中東や東アジアなどでの地政学リスクが不透明感として残りますが、新興国株式を含む世界的な投資環境は徐々に改善すると思われます。

<今後の運用方針>

以上のような不透明な投資環境の下では、収益性が高く、キャッシュフローの安定成長が期待できる優良株が選好される傾向があります。当ファンドは、引き続き配当利回り水準と配当成長性に注目し、利益の質や株主還元政策などにも留意してまいります。また、相対的に株価の出遅れ感があるアジアの組入比率を高めに維持しつつ、ファンド全体の株式組入比率は12月末と同程度とします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



愛称：ワンプレートランチ グローバル3資産ファンド

マンスリーレポート

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年12月30日

※ このページは「グローバル・リート・マザーファンド」について、BNPパリバ・アセットマネジメント・グループから提供を受けたデータおよび情報を基に記載していません。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
リート	96.7	-1.5
先物等	0.0	0.0
現金等	3.3	+1.5
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	4.7	+0.2

- ※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。
- ※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。
- ※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	43.9	-1.6
2 日本	15.8	-1.2
3 シンガポール	8.4	+1.3
4 オーストラリア	7.7	-0.1
5 イギリス	6.2	-0.9

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	44.7	-1.6
2 日本円	15.8	-1.2
3 オーストラリアドル	7.7	-0.1
4 シンガポールドル	7.6	+1.3
5 ユーロ	6.4	+0.5

組入上位5セクター (%)

	当月末	前月比
1 小売り	31.2	+2.2
2 オフィス	15.7	-0.4
3 産業用施設	12.2	-1.1
4 複合	11.9	-0.7
5 住宅	11.1	+3.7

※ セクターはGPR社による分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 54)

銘柄	国・地域	セクター	比率	配当利回り
1 サイモン・プロパティ・グループ	アメリカ	小売り	6.2	4.9
2 VICIプロパティーズ	アメリカ	その他	3.9	6.0
3 リアルティ・インカム	アメリカ	小売り	3.8	6.0
4 アレクサンドリア・リアル・エステート・エクイティーズ	アメリカ	オフィス	3.3	5.4
5 ドリーム・インダストリアル・リート	カナダ	産業用施設	3.3	5.9
6 リンク・リート	香港	小売り	3.1	8.2
7 キャピタランド・インテグレートッド・コマーシャル	シンガポール	複合	2.9	2.2
8 フェデラル・リアルティ・インベストメント・トラスト	アメリカ	小売り	2.8	4.0
9 センター・グループ	オーストラリア	小売り	2.3	5.0
10 日本プロロジスリート投資法人	日本	産業用施設	2.3	4.7

※ 配当情報がない銘柄は、配当利回りを「-」と表示しています。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



※ このページは「グローバル・リート・マザーファンド」について、BNPパリバ・アセットマネジメント・グループから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

12月の主要な地域、国別の市場動向は、以下の通りです。（GPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス（現地通貨、月末前営業日ベース）、以下同様）

米国リート市場は、長期金利の高止まり懸念に加え、トランプ政権の政策を巡る不確実性が嫌気され下落しました。

カナダ・リート市場は、米国と同様に下落しました。

欧州リート市場は、欧州の政治環境の不透明感などが重石となり下落しました。

英国リート市場は、インフレ率上昇が加速したことに加え、欧州全体の政治環境の混迷が下押し圧力となり下落しました。

豪州リート市場は、米国から波及した長期金利の高止まりが住宅関連等の金利敏感な銘柄を中心に影響を与え下落しました。

シンガポール・リート市場は、関税を巡る不透明感や長期金利の高止まりが嫌気され下落しました。

香港リート市場は、中国本土と関連が深い香港経済の停滞感が継続し、米国と連動する香港の長期金利が上昇し、大手商業施設リートへの下押し圧力が続き下落しました。

Jリート市場は、金融政策を巡る不透明感が引き続き重石となりました。12月の日銀会合で慎重な利上げ姿勢が確認され、その後はやや持ち直し、月を通じて横ばいとなりました。

為替市場は、主要通貨は揃って円に対して上昇しました。

<運用経過>

12月は、米国の南東部・南西部・中部大西洋岸地域を中心に、集合住宅コミュニティの所有・運営・買収、および開発を行う米国のミッド・アメリカ・アパートメント・コミュニティーズと、ディフェンシブ（景気変動の影響を受けにくい）性が高いことに加え、賃料動向及び外部成長力をドライバーに好調な業績モメンタム（勢い）が続くとみられる国内特化リートリーのシンガポールのフレイザーズ・センターポイント・トラストを新規で購入しました。一方、利益確定のため米国のケアトラスト・リートと、非中核事業の売却計画を巡るリスクを懸念し英国のトライタックス・ビッグ・ボックス・リートを全売却しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

※ このページは「グローバル・リート・マザーファンド」について、BNPパリバ・アセットマネジメント・グループから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場の見通し>

トランプ次期政権の政策の範囲と詳細が今後の経済と市場に大きな影響を及ぼすことが予想されます。一方で、今後インフレ率の上昇ペースが2%目標に向かって減速しなければ金融緩和サイクルが予想よりも早く終了する可能性がありますので、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融政策の動向には注意が必要です。そのような環境下において、ポートフォリオの構築にあたっては、財務健全性が高く、利益成長が見込まれる質の高い銘柄に着目しながら、慎重なスタンスで臨みます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

ファンドの特色

- 世界の債券、株式、不動産投資信託（リート）の3つの異なる資産に分散投資を行い、配当等収益の確保と信託財産の安定した成長を目指します。
 - 各資産は、好利回りに着目して運用します。
 - 実際の運用は、マザーファンドへの投資を通じて行います。
 - 債券、株式、リートへの投資割合は、1：1：1を基本とします。
 - 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - 毎月決算（原則として毎月20日、休業日の場合は翌営業日）を行い、分配方針に基づき分配を行います。
 - 原則として安定した分配を目指します。
 - 分配金額は、委託会社が分配方針に基づき、基準価額水準、市況動向等を考慮し決定します。※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※「安定した分配を目指します。」としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リーートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リーートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリーートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリーートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。



投資リスク

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

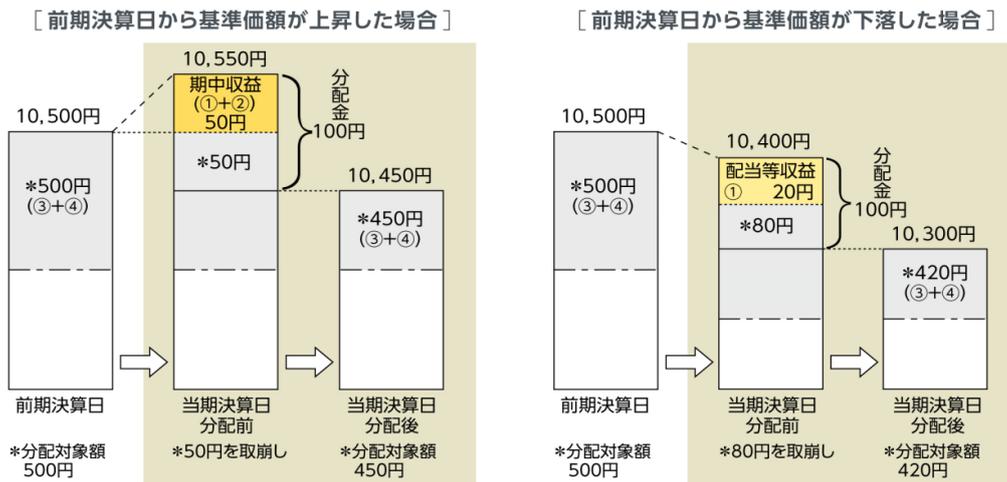
分配金に関する留意事項

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



■分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

〔計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合〕

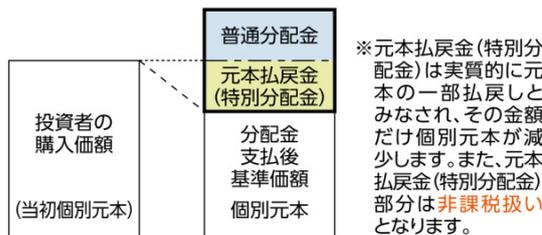


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

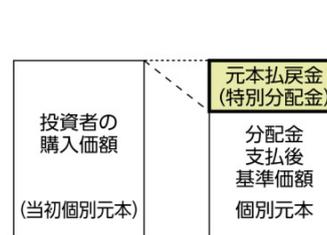
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

■投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

〔分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



〔分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合〕



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2005年9月30日設定）

決算日

毎月20日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）**を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.25%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.54%（税抜き1.40%）**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
ファンドが組み入れるリートの銘柄は将来にわたって固定されているものではなく、ファンドの投資者が間接的に支払う費用として、これらリートの資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等の上限額または予定額を表示することはできません。
また、以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。 BNPパリバ・アセットマネジメント・グループ

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本一般社団法人投資顧問業協会	金融一般社団法人先物取引業協会	一般社団法人投資信託協会	備考
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3283号	○	○	○			
池田泉州T T証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第370号	○					
a uカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		
株式会社S B I証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
F F G証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第5号	○	○				※1
O K B証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第191号	○					※1
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第3198号	○					
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2938号	○					※1
十六T T証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第188号	○					※1
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○		
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	○					
浜銀T T証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○					※1
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第20号	○					※1
ほくほくT T証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第24号	○					
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長（金商）第1号	○					※1
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
三木証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第172号	○					
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号	○			○		※1
株式会社足利銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第43号	○			○		※2 ※1
株式会社S B I新生銀行（S B I証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※2 ※3
株式会社愛媛銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第6号	○					※1
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第3号	○			○		※1
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第7号	○			○		
株式会社北日本銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第14号	○					※1
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第8号	○					
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第53号	○			○		
株式会社熊本銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第6号	○					
株式会社群馬銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第46号	○			○		

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしておりません。 ※2：ネット専用 ※3：委託金融商品取引業者 株式会社S B I証券

販売会社

販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第61号	○					※1
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第47号	○			○		
株式会社長野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第63号	○					
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第15号	○					※2
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○			○		
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○			○		
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第10号	○					
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○		
株式会社北洋銀行（仲介）	登録金融機関	北海道財務局長（登金）第3号	○			○		※4
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第22号	○			○		
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第38号	○					※1
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第41号	○					※1
株式会社U I 銀行（仲介）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第673号	○					※2 ※5
京都信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第52号	○					

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしておりません。※2：ネット専用※4：委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社※5：委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

